美しいまちづくりのために

かなざわ景観だより

第6号

平成十一年（一九九九）六月発行
■企画編集／景観だより編集委員会
■発行／金沢市広坂一丁目一一一
金沢市都市政策部まちなみ対策課
（〇七六）二二〇―三六四

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

こまちなみに出会う

昔も今も変わらぬ息づかい…

金沢には、貴重な歴史的建築物が今もなお、数多く残っており、個性的なまちなみに歴史と文化の彩りを添えています。「こまちなみ」とは歴史的風情を残す、そんなちょっとした良いまちなみのことを言います。また、「こまちなみ」は単にまちなみとして美しいだけではなく、そこに住む人々の生き生きとした生活の匂いの感じられるまちなみでもあります。

旧御歩町（きゅうおかちまち）

川幅が広く流れも急な犀川が「男川」と例えられるのに対し、そのゆるやかな流れから「女川」と呼ばれる浅野川。その浅野川に面して広がる東山一帯は、ひがしの茶屋街をはじめ、観音院に至る通り沿いに古くから賑わった旧観音町など、町人文化が栄えた華やかな場所として有名です。そのような歴史的情緒が色濃く残る一角に、閑静な住宅地「旧御歩町」があります。

藩政時代そのままの細く入り組んだ通り。その通りに面して連なる板塀や土塀。門や塀越しに見える庭木の緑と、その奥に控える瓦葺きの大屋根。江戸時代、「歩士（かち）」と呼ばれる加賀藩士の組地があったことからその名が付いたと言われるこの町に足を踏み入れると、かつての武士たちの暮らしを感じることが出来ます。

しかしこのまちの魅力はそれだけではありません。

浅野川大橋のたもとからこの町に入っていくと、右手に浅野川が、左手には卯辰山が広がります。季節ともにその表情を変える美しい流れや豊かな緑は、このまちに潤いと彩りを添えています。

さらにまちの中を不規則にめぐる小路にあって足を進めると、まちなみが変化していく様子がわかります。東山界隈は、かつて町人の暮らした町家が集積する場所でもありました。「町人のまちなみ」と「武士のまちなみ」。このような全く趣の異なる二つのまちのたたずまいを楽しむことが出来ることも、このまちの魅力のひとつです。

かつてこのまちには、東山で花開いた町人文化の影響を受け、芸事を教え伝える人たちや、それをたしなむ人々が数多く暮らしたと言います。

その伝統は今も息づき、同じ武士系の住宅地でありながら他のまちとは異なり、このまちを「肩ひじの張らない、粋でしっとりとした情緒漂う空間」と成熟させて来ました。

このようなまちの歴史とそこに暮らす人々の息づかいを感じることができる「こまちなみ」を大切にしたいものです。

まちのれきし

「徒（かち）」とはもともと、乗物に乗らないで歩く、の意味で、中世・近世には、徒歩で戦争の行列の先導をつとめた小身の侍のことを「徒士（かち）」といった。徒士（かち）で編成された藩のことを徒組（かちぐみ）といい、加賀藩時代、城下の4か所にその組地（住居）があった。

その一つがここ旧御歩町で、観音山（卯辰山）の麓に位置し、浅野川大橋のたもとから川縁に沿い東北一帯を占める。当時は他と区別するため、観音下御歩町・観音町御歩町とも呼ばれていた。以前は「卯辰山の麓」で町域が延びており、今からちょうど三百年前の元禄二二年（一六九九）の観音山崩れの際には、多くの死者を出したという。昭和四一年、現在の東山一丁目となった。

（参考文献/角川日本地名大辞典）

まちのひと

裏千家茶道教授
井奈宗孝（51歳）
金沢市東山一―十七―二十二

大正時代、私の祖母の代からここに住んでいます。すぐ近くが卯辰山と浅野川ですから、夏はセミとりや昆虫とり、魚釣りをして、思いっきり遊び暮しました。母子（ガイシ）にテグスを巻き付けて川面に投げ込んでおくとウグイが沢山とれたものです。

私には、小学校四年と三年になる息子がいますが、自然に触れさせたくてよく川へ連れていって魚釣りを教えています。セミとりにもいきます。家の庭が小さくなったりしてセミの数は昔と比べて随分少なくなりました。

すぐ裏手がひがし茶屋街なので、観光客の方がよく迷いこんでこられます。道をお教えするのはやぶさかではないですが、もっとわかりやすい案内板があればいいですね。それと車でこられる観光客の方が多いですが、やはり歩いてまちなみを楽しんでほしいと思います。

昨年この界わいは、こまちなみ保存区域の指定を受けましたが、住民の負担のことも考えられた大変良い制度ですね。住民の暮らしを制限しない程度で折り合って、まちなみを守っていければと思っています。

景観美カタログ

第20＋1回金沢都市美文化賞

石川県立金沢二水高等学校
（緑が丘）
広く市民に開放された前庭、二つの水の流れと多彩な植込や並木、そして表情豊かなプロムナードが建物のデザインと一体になり、新しい都市環境を創出しています。

奥卯辰山健民公園 ゆったりトイレ（奥卯辰山）
松林の斜面に沿って静かに佇む板張りと打放しコンクリートのこの建物は、展望を妨げないよう細心の配慮がされています。

銀の波　箔座
（東山）
紅殻格子に群青の床、波のように浮かぶ銀板、七色に変化する銀箔のような、妖しの世界に東山の町家がまた一つ蘇りました。

㈱福光屋　酒蔵
（石引）
蔵のイメージを大切にし、道路に面した地階部分を割石積とすることで、高低差のある周辺環境との調和を図っています。

茶房　ゴーシュ
（東山）
築100年以上の民家を、伝統的なまちなみをくずすことなく、喫茶店・ギャラリーへと改装・再生させました。

西茶屋資料館
（野町）
島田清次郎のゆかりの品々を展示する資料館ですが、伝統的な造りで茶屋街のまちなみとの調和が図られています。

竹村邸
（山科）
芝貼の公園を借景に、南庭を囲む形で並ぶ雁行した屋根は横長となった全体にリズムを与え、緑豊かな中に佇んでいます。

栃澤邸
（田上新町）
敷地の高低差・隣接住宅の状況を考慮に入れ、一軒の住宅からもまちなみとしての環境を形成するように計画されています。

鍋島邸
（彦三町）
既存の松を活かした路地風のアプローチ。土蔵も残すなど、歴史ある彦三に気配りのある和風住宅となっています。

犀星碑前落差工（川岸町）
魚の遡上への配慮に加えて、景観の向上によって訪れる人々にやすらぎを与え、犀川の魅力がより高まりました。

シブヤマシナリー㈱社屋
（北安江町）
駅西の発展に伴い大きく変化しているまちの中で、単純な形態と材料により、ランドマーク的存在となっています。

第11回いしかわ広告景観賞

デューク動物病院（富樫）
動物病院のシンボルマークとなっている犬の横顔をビジュアルに表現し、動物好きの人の心理をついていて、しかもわかりやすいデザインとなっています。

金沢市若松・鈴見地区土地区画整理組合
（若松・鈴見地区）
遊歩道の進路誘導として石の重厚さが自然の中に映えています。設置場所に応じてデザインを変えている点や、ワンポイントカラーや地図等に気配りを感じます。

竪町商店街振興組合
（竪町）
若者の集まるまち、竪町によく似合っています。赤という強烈なカラーを使いながら、よくデザイン処理されていて、商店街の案内としての意気込みが感じられます。

㈱ゼンリン北陸
（西念町）
近代的で斬新な建物とのハーモニーが意識されています。大きさ、色彩ともにシンプルで地区計画の定める範囲内で、サイン効果を出そうとする努力が見られます。

石川県金沢土木事務所
（橋場町）
河川の警戒標識と言えば、公共性から固くなりがちなのに、浅野川のしかも「梅の橋」そばといった場所柄を意識した優しさが感じられ、景観にマッチしています。

アパグループ
（広岡）
バックとなる壁面に何か目的がありそうで、結局サインそのものでしかないところが実に面白く、トータルでバランスがとれています。

安全で快適な街づくりに向けて

公的サインのデザインを統一

道路や施設の案内などの公的な広告物は単に都市の機能としてだけでなく、市民や来訪者の交流に係わる重要な要素です。

ところが、従来、市が設置していた広告物のデザインや字体などにばらつきが見られ、また近接する場所に複数の広告物が配置され、景観形成の妨げともなっていました。

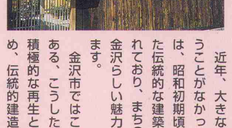
そこで、平成10年度にまちなみ対策課では、市が設置する公的な広告物のデザインの統一を図りました。

公的サインのデザインは金沢らしさを組み入れるため、素材に戸室石の人工石を使用したり、格子をイメージするデザインを採用したりして、親しみやすいサインデザインとなっております。

今後とも、統一されたサインデザインで、分かりやすく安全で快適な街を創出し、金沢らしさの演出を図っていきます。

ご存知ですか？

伝統的建造物修復支援制度



近年、大きな震災や戦火に遭うことがなかった城下町金沢には、昭和初期頃までに建てられた伝統的な建築物が今なお残されており、まちのそこかしこで、金沢らしい魅力を醸し出しています。

金沢市ではこのまちの財産である、こうした貴重な建築物の積極的な再生と活用を目指すため、伝統的建造物修復支援制度を設けています。

この制度は、伝統的建築物の外観の修繕や防災構造の補強などの工事に対して、一定の範囲内で工事費の補助を行うものです。補助を受けるには、「伝統的環境保存区域」および「近代的都市景観創出区域」のうちの対象区域にあること、加えて昭和二〇年以前の建築であることなどの要件を満たしていることが必要です。

対象区域や要件などの詳細については、まちなみ対策課にお問い合わせ下さい。

おしらせ

今年も、金沢の新しい魅力が発見できるようなまち歩きや、まつづくりのために共に考え、意見を交わすことができるようなシンポジウムを企画したいと思っています。日程やイベント情報誌などでお知らせしますのでふるってご参加下さい。

この「かなざわ景観だより」は、まだ若干の予備部数がありますので、もっとゆっくりお読みになりたい方は、まちなみ対策課までお起し下さい。

まちなみ対策課では、景観についてみなさんの率直なご意見やご感想をお待ちしています。日頃感じているちょっとした思い、ふと見つけたすてきなまちなみなど、お気軽にお寄せ下さい。

編集後記

今回号は、昨年5月から10月にかけて行った計3回のまちなみ体験ウォークの特集とさせていただきました。「緑二水二明かり」をテーマに、普段はあまり歩く機会のないところもコースに取り入れ好評をいただきました。

このうち「明かり」については、金沢の夜の魅力を引き出すため、歴史的な建造物や用水、橋などをライトアップしましたが、参加のみなさんにはこれにかけに、金沢のまちに心さわしい明かりや、自分たちの身の回りの快適な明かりについて考えていただけたら幸いです。

一方、歴史的なまちなみを引き立てる落ち着きの高明かりも大切であり、高齢化社会では必要なところには一定の明るさを確保しなければならないことも教えられました。

ライトアップでは、照明器具の選択以外にも、大勢の人々が通る場所でどこから安全に電気を引くかということが問題で、照明メーカーや電力会社の方々にもずいぶん協力をいただきました。また、尾張町の老舗交流館では、なぜか当日の受付名簿をはるかに上回る人々がもてなしを受けたと聞いています。

今後とも、皆様のご意見やご協力をいただきながら、よりよいまちづくりに取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

TREE FREE
トータル・エコロジー・バランスに優れた21世紀の紙「ツリー・フリー・ペーパー」（非木材紙）を使用しています。